

全員参加による宝マップ作成とその活用について

岐阜営林署 揖斐担当区主任 ○檀 研 一
美濃担当区主任 岩 崎 利 行

1. 取り組んだ背景とねらい

今年度は新しい経営改善計画の初年度であることから、これに積極的に取り組み、参画することが求められている。

このようなことから、資源状況から多くの林産物収入を確保することがむずかしい当署においては、収入確保の面で新しい改善計画にどのように貢献していくかが重要な課題である。

この課題に取り組むことにより

- (1) 全員参加による、経営マインドの高揚を図る。
- (2) 「山は宝」の豊かな発想を養う。
- (3) 資源開拓からマーケティングの充実を図る。
- (4) 市民へのPRに資する。

などの成果を期待し、平成3年度の業務方針に「職員一宝さがし運動の展開と、担当区主任による宝マップ作りを行う」を掲げ実施するとともに、併せて立場、持ち場で積極的に事務改善等創意工夫にも取り組むこととした。

2. 実施方法

(1) 宝さがし実施要領

現場職員を含めた全員が参加し、特に担当区主任は、在籍している基幹作業職員の豊富な現場知識を活用し、参画させながら部内の巡視を積極的に実施し、宝さがしを行い宝マップの作成を行うこととした。

また、署内職員についても、署の周辺あるいは現場に出張した時を利用して宝さがしを行い、場所、物等について思いつくこと等、すべてについてメモしておくこととし、後日、担当区主任から提出してきた宝マップに記入する。

なお、宝については「モノ」に重点をおいて量、質、搬出方法、価格等に拘らないで、細部の状況等については、マップの外に、別に細部の内容についてメモした一覧表を作成することとした。収入にどのように結びつけていくかは、今後の実行段階で検討するときの資料とすることとした。

(2) マップ委員の編成

とりまとめは作業等を効率的に実施していくため、チームの編成メンバーを次のとおりとし、出署日等を利用して必要に応じ打合せを行う。

主 査：（取りまとめ） 次 長

各 課： 課長を含め2～3名

現 場： 担当区主任等現場主任全員

(3) 取りまとめ方法

ア 各担当区主任等は、管轄する部内の宝マップを作成し提出する。

イ 署内職員の分については、担当区主任から提出された宝マップに、各人のさがした宝をそれぞれの該当箇所に記入する。

ウ イにより作成した、各宝マップから「管内総合宝マップ」としてまとめる。

エ 完成した「管内総合宝マップ」については、今後これを基として必要に応じ、適宜加除を加えながら、より一層中身の充実したものとする。

3. 実施結果

今回の各担当区主任から提出された「管轄担当区部内の宝マップ」を基として作成した「管内総合宝マップ」は、別図のとおりである。（例図は檜原谷国有林のみ掲載）

「宝」の内容については下記のとおりである。

今回さがしだされた「宝」は次のとおりで括弧内は国有林名林班名等でもある。

(1) 林産物に属するもの

- ① ケヤキ等高品質材の生産・販売（越波 48～54, 56）
- ② 木曽ヒノキ大径枯損木の生産・販売（金華山 182, 183）
- ③ スギ大径被害木の生産・販売（金華山 182, 186）
- ④ ヒノキ根曲木の生産・販売（檜原谷 167, 168）
- ⑤ 間伐材の活用（治山工事現場周辺）

(2) 副産物に属するもの

- ① 湧水の販売（川上 8）
- ② ショウジョウバカマ、イワウチワ、アジサイの販売（檜原谷）
- ③ 間伐材を利用した炭の生産と販売（足打谷、檜原谷全域）
- ④ ツバキ、ドウダンツツジの販売（古城山）
- ⑤ マツタケ、たけのこ現地販売（同）
- ⑥ 花木、床柱用材の生産と販売<ヒメシャラ、ナツツバキ、リョウブ>（越波 46～57）

- ⑦ 根曲がり竹のタケノコ現地販売（大河原 24, 25）
 - ⑧ ワサビの販売（大河原、川上 20）
 - ⑨ トチの実、まいたけ、サルノコシカケ、山菜の販売（越波、大河原、門入）
 - ⑩ シキミの生産と販売（苗畑）
 - ⑪ 生花用切花の販売（越波外）
 - ⑫ タラノキ、クズの根の生産と販売（越波、大河原）
 - ⑬ 腐葉土用落葉の生産と販売（金華山外）
 - ⑭ アジサイ、ドウダンツツジの販売（円原）
- (3) 土地、土石に関するもの
- ① 大転石、岩の販売（檜原谷168、足打谷178）
 - ② 余剰作土の販売（苗畑）
 - ③ 庭石の販売（足打谷178）
 - ④ 土地（金華山183）
 - ⑤ 治山事業地残土の販売（川上）
- (4) その他のもの
- ① 風景、自生する花、動植物、昆虫等の活用（金花山、古城山）
 - ② 駐車場の有料利用（署）
 - ③ 堰堤の公告板としての使用（大河原、砂利谷）
 - ④ 鱒釣り場の作戦（大河原堰堤間）
 - ⑤ カイズカイブキ等生垣の間引と販路の開拓（苗畑）
 - ⑥ 溪谷の観光としての活用・近くに東海遊歩道がある。（足打谷、檜原谷）
 - ⑦ インストラクターの養成と活用（金華山）
 - ⑧ ストック雪の生産と販売（白谷）
 - ⑨ 休憩所敷の貸付（温見峠）

4. 成果と今後の検討事項

(1) 平成3年度の主な成果

① ケヤキ等高品質材の生産販売と林分改良の実行

越波国有林において点状に、散在している木曽ヒノキ、ケヤキ等の高品質材のきめ細かな資材調査とヘリコプターによる生産集材を行い、有利販売を考えた市場への委託販売と林分改良を実行した。

（販売額 61,726千円）

② 金華山に関する案内所の企画・販売

特に、今年からはNHKの大河ドラマ「信長」が始まり、大幅に金華山への入込み者が増加すると考えられるので、事業図を利用して、ハイキングコース、登山道、見所等の正確な位置、距離、所要時間等を記入した、他にないオリジナル性のある観光パンフを企画してロープウェイ会社と共同で作成し、委託販売することで作業を進めている。

③ マツタケ、シキミ、サカキの販売

主として、古城山国有林に生育しているものを関係業者に積極的に販売している。

(販売額 72千円)

(2) 平成4年度に向け検討している事項

ア 余剰土の販売

余剰土として山積みしてあるものを造園業者、花木センター等への販売を中心として働きかけていく。

イ 大転石、間伐木等を利用した治山工事の実行

大転石を利用した工法の採用と開発（主として、古城山において実行中の「生活環境保全林の整備事業」等で検討する。）また、間伐木については、国有林の資源活用の面から間伐の実行業者と、治山工事の施工業者を一体とした実行（水源地域の森林整備事業で検討する。）

ウ 堰堤を公告板として使用

道路、歩道等に近接しドライバー、ハイカー等多くの人達が休憩、水遊びなどに利用する箇所のある堰堤等の水表を公告板として使用させる。また、国有林自らのPR用としても使用する（大河原）

エ カイズカイクキ・マサキの間引きと販売

緑ヶ丘種苗事業所に生垣として管理しているカイズカイクキ・マサキの密度を管理をして、間引きしたものを販売する。

5. 今後の取組み

完成した「管内総合宝マップ」については今後これを基として必要に応じ適宜加除を行いながら、より一層中味を充実させる。

成果の活用については、各年度の業務計画作成時までには、その年度の成果をとりまとめ、その時点で収入にどのように結びつけていくか「物」「量」「販売方法」等で問題、障害となるのは何かを検討し、これらの条件をクリアしたものの中から反映していくこととしたい。

6. 課 題

今まで漫然として見過ごしてきた未利用資源「宝」について、①何があるか。②活用方法は。③収入に結びつける手段は何か等について発想が不足していることを痛感した。

今後、より一層宝マップを充実していくためには、有識者等を講師とした研修、検討会を行うとともに自己研鑽に努め、「山は宝」として見る感覚を養うことが必要である。

7. おわりに

この行動を行ってきたなかで、職員の意識の高揚を図ることができ、販売、PR活動等にも大きな成果が得られた。

また、現場に出る機会の少ない職員については、極力事務改善等について取り組むこととした結果、21件もの事務改善提案が出されたことは、当初意図した成果が十分得られたものと考えている。

今後においても、この「岐阜営林署管内総合宝マップ」が本当の宝として豊かな発想と、収入の源となるアイデア・情報がいっぱい詰まったものとなるよう、一層の努力をしていきたい。

マップの実際例

揖斐郡
春日村

榎原谷

揖斐担当区

